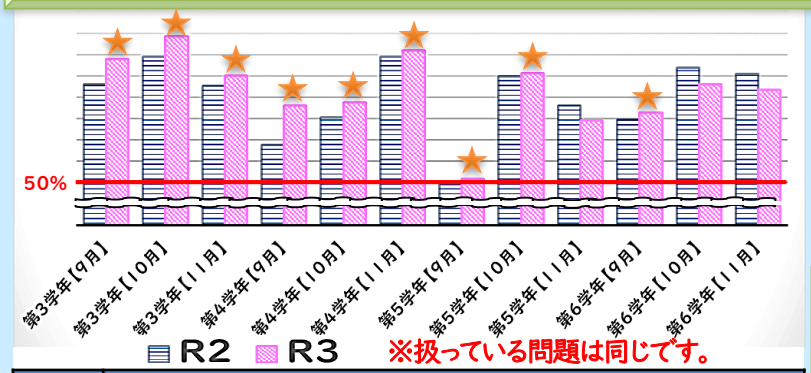
すべての子供に「できた」「わかった」を！

# 単元到達度評価問題を有効活用し、すべての子供に力を付ける！

西部教育局
お役立ち情報
令和4年1月号

## 西部地域平均到達率の比較 9月～11月（R2-R3）




※扱っている問題は同じです。

| 実施月 | 出題内容 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 |
| 9月 | ・長さ | ・21たでわるわり算の筆算<br>・割合 | ・整数 | ・資料の整理<br>・円の面積 |
| 10月 | ・重さ | ・式と計算の順じょ<br>・面積 | ・分数（1） | ・比とその利用 |
| 11月 | ・円と球 | ・がい数とその計算 | ・平均とその利用<br>・単位量当たりの大きさ | ・図形の拡大と縮小 |

左のグラフを見ると、2年続けて同じ問題を実施した12の単元のうち、今年度は9つの単元で昨年度の平均到達率を上回っていますね。この要因は何でしょうか。

要因としては、次のようなことが考えられます。

**①問題を事前に確認し、PDCAを回して授業改善を図る取組が定着した。**

**②子供が問題に慣れ、無回答率が減った。**

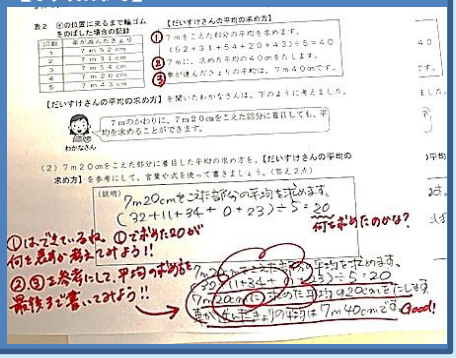
**③事前の情報提供(解答ページの解説、お役立ち情報、集計結果等）を有効に活用している。**

## 【ここがポイント!】昨年と比較して、到達率がぐんと上がった学校の取組とは？

### 記述問題を徹底的に鍛えているA校

記述問題を中心に、条件に合わせて正しく書けるようになるまで何度も書き直しをします。採点は、級外や低学年の職員も協力します。

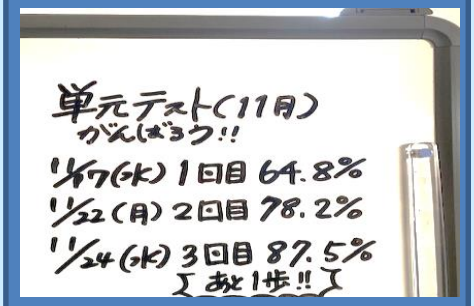
【採点例】




### 全員が100点になるまで粘り強く取り組むB校

帯時間を利用して、全員が100点になるまで何度も同じ問題に挑戦します。自分の力で最後まで解き切ることができたという実感を、全員にもたせることを大切にしています。

【板書例】




※報告には1回目の結果を提出しています。

### 「指導改善のポイント」を授業力アップにつなげるC校

子供の誤答傾向を分析し、報告の際に「授業改善のポイント」を丁寧に記述するようにしています。継続することで、授業中に子供のつまずきを予想できるようになりました。

【指導改善のポイント記述例】

（5月）普段の授業から、理由を説明する習慣を付けることが必要。

**的確な分析に変化！**

（11月）様々な形が組み合わさった模様の中から円を見付けることが困難。普段の授業から、複雑な模様の中から円を見付けたり、直径や半径の位置を確認したりする活動を行うことが必要。

なるほど。やはりやって終わりにせず、誤答を分析したり、できるようになるまで徹底してやり続けたりすることが大切なのですね。

5年生の1月の問題は「割合」です。これは、最もつまずきの多い単元の一つです。全員が「分かった」「できた」を実感できるよう、ぜひ取組例を参考にしてください。

## 【お知らせ】学年末にむけた単元到達度評価問題に係る取組の充実のために

### 記述問題S・S（スーパーセレクト）の配信

A校のように記述問題を強化したい学校のために、各月の問題から記述問題のみを切り取って配置した特別問題を、2月の問題配信の際に付録として送付する予定です。必要に応じてご活用ください（報告は不要です）。

### 評価問題を使った授業づくり研修会の実施

5年生の2月に出題されている「速さ」の問題を使った授業づくりについて協議し、持ち帰って実際の授業に生かしていただけるような研修会を、2月の初旬に企画しています。5年生の担任の先生を中心に、ぜひご参加ください。